

## FLORA of KOCHI

No. 38

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

## 探してみよう！ 春夏編

イソマツ (イソマツ科) *Limonium wrightii* (Hance) Kuntze var. *arbusculum* (Maxim.) H. Hara

高知県ではこれまでにイソマツ科の植物として、ハマサジだけが知られていました。ハマサジは満潮時に水没するような海岸の泥地や砂地に生え、高知県では8月頃から黄色い花を咲かせる多年草です。多年草といっても、根が十分に育つまで葉だけで数年を過ごし、花が咲いたら枯れてしまう一回繁殖型の植物です。ハマサジの名の通り、根ぎわに集まる葉は「さじ型」をしています。



ハマサジ (2016年8月23日室戸)



花 (2014年9月18日須崎)

一方、イソマツは海岸の岩上に生える小低木です。図鑑では、花期は8月から1月となっていますので、高知県では冬季にも咲いている可能性があります。現在分かっている分布は、伊豆諸島、小笠原諸島および硫黄島、宇治群島、草垣群島、種子島、屋久島、琉球、台湾(蘭嶼、緑島)など主に島嶼です。



イソマツの生えている様子 (2007年7月29日屋久島)

高知県でのイソマツに関する記述は、1937年に横波尋常高等小学校から発行された「郷土研究横波三里」にあります。この本は、横波尋常高等小学校の創立50周年の事業で、浦ノ内村について地理、歴史、博物学の3つの部門に分けて郷土誌としてまとめられたものです。博物学的部門は辻保二郎教諭により、第2章「横波の植物景観及動物」に述べられています。その中にある「横波の植物目録(吉永虎馬先生の植物採取会)」にイソマツが挙げられています。イソマツの項には「南部海岸に自生の多年生宿根草本で莖高四五寸下部は木質をなし葉は上部に叢生長垂形全辺夏日葉間より抽出梢上多く分岐し五裂小形白花合弁花を着生す」とあり、さらにハマボスとともに「外海海岸の下部岩上に着生群落をなして生育して・・・」と記述されています。

イソマツの花はピンク色ですが、吉永虎馬氏の採取会で確認されたのは白花だったようです。横波半島の外海側は急峻でアクセスが難しく、昔は道があったとしても今ではもう通れなくなっているところが多いです(釣り人が行くくらいでしょうか)。急峻な海岸は落石や滑落の危険が高いため、調査に行く際には無理はせず、細心の注意を払って下さい。

## 【参考文献】

米倉浩二(2016)イソマツ科イソマツ属。大橋広好、門田裕一、邑田仁、米倉浩二、木原浩(編)。改訂新版日本の野生植物4。pp.82-83。平凡社。東京。  
辻保二郎(1937)横波の植物景観及動物。長崎辺馬(編)。郷土研究横波三里。pp.69-88。横波尋常高等小学校。高知。



イソマツの花 (2007年7月29日屋久島)



# 高知県の植物 ニュース

## 九州から四国へ分布を広げる植物たち

文・写真：前田 綾子

2016年10月、室戸市でクスノキ科の寄生植物スナヅルが発見されました。近年分布が九州までとされていたヤマハンショウヅルやキイレツチトリモチなどが相次いで高知で見つかっています。スナヅルもその一つに加わりまし

### スナヅル(クスノキ科)

*Cassytha filiformis* L.

本種は、2016年10月31日、松本忠博氏により室戸市の海岸で発見されました。7m×6mの範囲にマット状に生育し、やや太い硬めのつるが複雑に絡まり、何個体あるかは不明です。

スナヅルは、クスノキ科のうち唯一の寄生性の分類群スナヅル属の1種で、つる性草本です(Weber 2007)。本種は、スナヅル属の23種の中で最も広い範囲に分布する種で、世界の熱帯に広くみられ(Weber 2007)、日本には琉球から屋久島、九州の佐多岬まで分布します(田村 1982)。日本では海岸付近にしかみられませんが(田村 1982)、ハワイでは内陸にも生え、栽培のマンゴーやナツメグなどに寄生して農業的な被害を引き起こしたり、海岸の絶滅危惧種を枯らしたり、問題となっています(Nelson 2008)。開花結実は、沖縄からの報告で(天野ら 2013, 立石ら 2014)、開花9月～2月、結実10月～3月と季節性があります。高知では少なくとも11月中旬に花と実が見られました(写真1-1)。

寄生植物といっても寄生の仕方は種によってそれぞれです。以前紹介したキイレツチトリモチ(ツチトリモチ科)は宿主を自分の身体に取り込む方法をとりますが、

反対にハマウツボ(ハマウツボ科)は宿主に入り込む方法をとります。スナヅルはというと、「吸器」を宿主に付着させ、そこから養分を吸収します(写真1-2)。しかし、スナヅルは緑色の部分があることから分かるとおり、光合成もする半寄生植物です。

スナヅル属の植物はその見た目からネナシカズラ属と間違えられることがあります。ネナシカズラ属の植物は一年草である一方、スナヅル属は多年草といわれています。ネナシカズラの仲間のように、個体の寿命が短く季節的消長があれば、宿主の回復が見込め同じ場所に居続けることができます。スナヅルは宿主特異性がほとんどなく(Nelson 2008)、本地点ではハマゴウに寄生していました。たとえ光合成をする半寄生植物であっても、養分を抜き取られる宿主は次第に弱っていきます。そのようなことから長期間同じ場所に生育し続けるのは難しいと考えられます。また、寒い年には枯れたり、台風や高潮でなくなるかもしれません。今のところ自生地は発見された1箇所だけ。地球温暖化か、偶然か、いつどのような経緯で、入り込んだのかは不明です。今後の個体の推移を観察していきたいと考えています。

### 【引用文献】

- 田村道夫. 1982. クスノキ科スナヅル属スナヅル. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編)日本の野生植物草本II 離弁花類. p.56. 平凡社. 東京.
- 天野正晴, 立石庸一, 佐藤寛之, 田場美沙基, 富永篤. 2013. 沖縄県の離島・へき地における自然教育のための基礎資料の充実VI: うるま市津堅島の植物相. 琉球大学教育学部紀要 (83): 177-200.
- 立石庸一, 佐藤寛之, 天野正晴, 田場美沙基, 齊藤由紀子, 富永篤. 2014. 沖縄県の離島・へき地における自然教育のための基礎資料の充実7: うるま市浜比嘉島の植物相. 琉球大学教育学部紀要 (85): 45-74.
- Weber, J. Z. 2007. Genus *Cassytha*. In: Wilson, A. G. (ed.) Flora of Australia Vol. 2. pp.117-136. ABRIS/CSIRO Publishing, Melbourne.
- Nelson, S. C. 2008. *Cassytha filiformis*. Honolulu (HI): University of Hawaii. (Plant Disease; PD-42): 1-10.



写真1-1 花序 (2016年11月13日 室戸市)

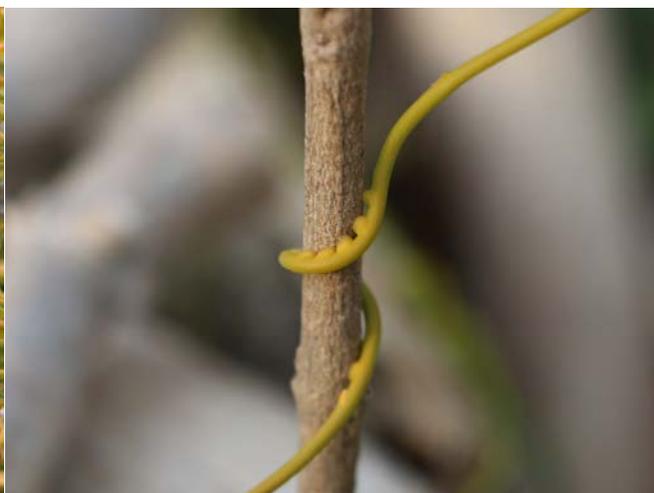


写真1-2 寄生の様子 (2016年11月13日 室戸市)

高知県に生育する外来植物の調査が2016年から始まりまし。2018年度末までの約2年間で野外調査を行い、外来植物の市町村別分布リスト(ブルーリスト\*)を作成する計画です。2016年度は予備調査として、51人のボランティアが参加、のべ280日調査が行われ、約950件のデータが収集されました(写真2-1)。外来植物予備調査へのご協力、誠にありがとうございました。

高知県では、本来県内では自生していなかった植物が多数見られるようになり、高知県植物誌に掲載された外来植物は約470種類(約14.8%、逸出も含む)でした(高知県・牧野財団 2009, 藤川ら 2013)。刊行後に確認された新たな外来植物はすでに32種類。さらに今回の予備調査で、オオホナガアオゲイトウ(ヒユ科)とツノアイアシ(イネ科)の2種類が確認されました(坂本 2016)。また、山中(1978)に記録のみがあったイリノイヌスビトハギ(マメ科)の生育が確認され(坂本 2016)、2016年初確認のヨシススキ(イネ科)は(黒岩 2016)、高知市内をはじめ県内各地で生育が確認されるなど、国外から意図的に導入または非意図的に移入した外来植物の生育の状況が明らかになりつつあります。

そのほか野外で注意しなければならない外来植物には、大陸から、あるいは国内の自然分布域から帰化した考えられる植物が生育することです。例えば、高知県ではシマカンギクやキクタニギク(アワコガネギク)など。これらの植物を造成地や林道の法面などで見かけたら、もしかすると法面緑化の吹き付け用種子として大陸からやってきたものかもしれません。法面では

**【引用文献】** 黒岩宣仁. 2016. 怪しいススキはヨシススキ. 高知県植物誌ニュースレター No.36. 高知県牧野植物園.  
高知県・高知県牧野記念財団(編). 2009. 高知県植物誌. 高知県・高知県牧野記念財団. 844 pp. 高知.  
坂本彰. 2016. 新産・再確認外来植物. 高知県植物誌ニュースレター No.37. 高知県牧野植物園.  
藤川和美, 前田綾子, 田邊由紀, 小林史郎, 鴻上泰. 2013. 高知県植物誌—みんなでつくる植物誌—. 分類 13: 15-20.  
山中二男. 1978. イリノイヌスビトハギ. 高知県の植生と植物相. p. 287. 高知県林野弘済会. 高知.



写真 2-1 外来種調査・奈半利チーム  
(2016年10月17日 田野町)

注意して観察してみてください。

2017年4月から、いよいよ本調査が始まります。予備調査に参加された方から、「ある程度の植物の知識がないと調査に参加できない」また「在来種と外来種の区別が難しい」というご意見をいただきました。そこで、本調査では①ブルーリスト調査、②みんなで調べる外来植物調査、と2つの方法によって、高知県の外来植物の分布状況を調査します。

①ブルーリスト調査とは、全ての外来植物を対象として、各市町村で未確認の種類を採集、標本を作製し、調査票に記入して事務局(牧野植物園)へ送付します。②みんなで調査とは、タンポポ調査のように誰でも取り組める調査です。分布動向に注目が必要で見分けやすい5種類、イリオモテアサガオ、ヤナギバルイラソウ(写真2-2)、オオキンケイギク、メリケントキンソウ、ハルガヤを対象とした調査です。これら5種類を確認した場所で花(または果実)を採集し、ティッシュに包んで封筒に入れ、調査票に必要な事項を記入し、事務局へ送付します。

外来植物調査を市民協働で行うことで、身近な自然の変化に気づき、外来植物に対する関心を高め、高知県の生物多様性をみんなで知って、守っていくきっかけにしたいと考えています。皆さまの調査へのご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### \*ブルーリストとは

ある特定の地域に自生がなく、ほかの地域から移入・侵入した種(外来種)のリスト。希少野生生物のリストが「レッドリスト」とされていることから、ブルーとレッドを対照的に捉え、外来種のリストを「ブルーリスト」という。



写真 2-2 みんなで調査対象種のヤナギバルイラソウ  
(2016年9月3日 香美市)

# information

## ■ 平成 29 年度 分類学セミナーのお知らせ

平成 29 年度の分類学セミナーは下記予定で開催します。年間を通してのお申込み受け付けますので、是非ご参加下さい。

**場所：本館映像ホールまたはアトリエ実習室**

**時間：10:00～12:00**

### ◆ 4月8日 (土)

**ツツジ科ツツジ属** (内容：初級～中級)

講師：倉重祐二氏 (新潟県立植物園副園長)

定員：30名

※改訂新版日本の野生植物 4巻でツツジ属を担当されています。

### ◆ 6月24日 (土)

**シダ植物 (シケシダの仲間)** (内容：初級～中級)

講師：篠原渉氏 (香川大学教育学部准教授)

定員：30名

### ◆ 9月3日 (日)

**イネ科 (外来種)** (内容：初級～中級)

講師：茨木靖氏 (徳島県立博物館学芸員)

定員：20名

### ◆ 10月21日 (土)

**シソ科** (内容：初級～中級)

講師：瀬尾明弘

定員：30名

お申込は、下記まで。

メール：田邊 (kurahashi@makino.or.jp)

瀬尾 (akiseo@makino.or.jp)

電話番号：088-882-2673 (標本庫直通)

FAX 番号：088-882-8635 (代表)

※セミナー直前に詳細をご案内しますので、必ずご連絡先をお知らせ下さい。

※セミナーのみ参加される場合は入園料無料です。

## ■ 外来植物調査に関する問い合わせ

外来植物調査の仕方や調査票の記入方法、野外での植物採集や標本作製の方法などでご不明な点がございましたら、下記担当までご連絡下さい。なにぶん高知県では初めての外来植物調査となり、調査事務局も、手探りの部分が多いのが現状です。皆さまのご意見・ご提案もお待ちしています。

調査に参加してみたいと思われる方、一緒に野外へ出かけましょう！お声を掛けてください。

これからの季節、職員が野外調査にでかけることが多くなりますが、毎週火曜日 (休日の場合はその翌日) 9:00～17:00 に担当職員がお問い合わせに対応します。標本のお持ち込みによる受け取りはこれまで通りです。

外来植物調査窓口：田邊由紀

〒781-8125 高知県高知市五台山 4200-6

Tel: 088-882-2673 (標本庫直通)

Fax: 088-882-8635

e-mail: gairai\_kochi@makino.or.jp (外来植物調査専用)

## ■ そのほかの植物に関する問い合わせ

毎週火曜日 (休日の場合はその翌日) に植物研究課の田邊、前田が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定できない種類がありますので、押し葉状態 (仮押しでも結構です) にしたものをお持ちいただくか、お送り下さい。

植物に関する全般のお問い合わせは、月・水・金の 16時から 17時まで、教育普及課の職員がお答えします (Tel:088-882-2723)。

## ■ 編集後記

本号では高知県新産の植物と現在行われている外来植物の調査結果について、報告致しました。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

No.38の発行担当：前田綾子・藤川和美・田邊由紀・山ノ内崇志

★原稿募集中！高知県の植物に関するニュース、トピックお待ちしております。



高知県立 牧野植物園  
The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

〒781-8125 高知市五台山 4200-6  
TEL:088-882-2601/FAX:088-882-8635  
http://www.makino.or.jp/

【本号の内容についてのお問い合わせ】  
前田 (ayakom@makino.or.jp)  
藤川 (saussurea@makino.or.jp) まで